

庄原赤十字病院の 産婦人科常勤医師2人体制が継続 新しく寺本秀樹医師が赴任されました

保健医療課医療予防係 ☎0824-73-1155

本年4月、庄原赤十字病院の産婦人科に、広島大学教授の、寺本秀樹医師が赴任し、牧野康男医師と寺本医師の常勤医師2人による産科医療体制が継続されることとなりました。

市は、妊産婦や家族が安心して子どもを産み育てることが出来る環境づくりのため、引き続き、広島大学、備北メディカルネットワーク、庄原赤十字病院と連携し、産科医療体制の維持に努めていきます。



▶赴任のあいさつをする寺本医師
(写真右)



▶左から木山市長、牧野医師、寺本医師、中西代表理事、中島院長

寺本秀樹医師から一言

令和3年4月
1日から、庄原赤十字病院産婦人科に勤務して
います。寺本秀樹です。よろしくお願ひします。



私はこれまで、主として広島市内で、周産期医療、産婦人科腫瘍を中心とした医療を、ここ3年は、世羅郡で地域医療をしてまいりました。今回、庄原市、庄原赤十字病院のお招きで、赴任してまいりました。

肩書きは、広島大学寄附講座（※）教

授ですが、庄原市で産婦人科医として働いています。

庄原赤十字病院は、施設、スタッフが十分に整っており、他の診療科の先生方にも協力していただける体制ですので、安心して分娩していただけます。

また、手術、ホルモン療法、女性医学も得意とする分野ですので、何でもご相談いただけたらと思います。

地域の発展には、産婦人科医療が絶対に必要です。女性が安心して生活できる環境がなければ、人口も維持できません。産婦人科医療を、高い水準で提供できるように日々努力しますので、よろしくお願ひ致します。

庄原赤十字病院 中島浩二郎院長から一言



このたび、広島大学病院産婦人科工藤美樹教授、備北メディカルネットワーク代表理事中西敏夫先生、そして木山耕三市長の皆様方のご支援、ご協力の下、広島大学に「広島県北部地域周産期医療支援講座」という寄附講座を設置いただき、県北地域の周産期医療体制のさらなる整備が図られることとなりました。

そして当院の産婦人科赤木武文先生が

3月末をもって退任された後、本寄附講座により新しく大学病院から寺本秀樹先生をお迎えし、牧野康男先生との常勤医師2人体制が継続できることとなりました。

この寄附講座の設置を契機とし、今後とも広島大学病院と備北メディカルネットワークとの連携をさらに深め、庄原市のみならず広島県北部地域における産婦人科領域の診療レベルの向上につなげてまいります。加えて、地域の急性期医療を担う中核病院として、また、二次救急医療指定病院としての役割を果たせるよう取り組んでまいりますのでよろしくお願ひ致します。

※広島大学寄附講座：奨学を目的とする民間などからの寄付を有効に活用し、寄付者の意向に沿いながら、広島大学が主体的に設置する講座